

第六十一回フォト句優秀作品（28年4月11日）



落椿踏むにためらう

色香かな 大越 浩平

寸 評：これまで散々踏みにじってきたお方が急に色香に目覚めたのか？

北陸を席卷せんと

夫婦へび 中村 晃也

寸 評：言われて見ると
蛇に見えるから不思議。





安保法従たる任務は

支持します。大月 和彦
寸 評：ウイットに富んだ句。
主たる任務が忙しくならな
ければよいが。



ひとひらの蝶になりたし

花菜風 池田 隆

寸 評：春らしい風景。蝶は一
頭，二頭と数えるのだが花菜風
に免じて眼を瞑ろう。



城郭に**忍び寄る影**

資源安 安藤 晃二

寸 評：大手商社は赤字決算。
ビルに広がる暗い影を写して
この句をつけたセンスは抜群。



啓蟄や草も負けじと

動き出す 大月 和彦

寸 評：動きだすのは虫ばかりではない
という理屈はわかるのだが…。



伝統をつなぐ男の

心意気 池田 隆

寸 評：諏訪大社の御柱木落しの風景。
スケールの大きさが判る。

付け句



今月は大越さんの出題で、白馬三湖のひとつ中綱湖の春にかすむ絶景です。

- | | |
|-----------------------------|--------|
| 1) 里山に春の 女神のひと刷毛 や | 新田 由紀子 |
| 2) ほろ酔いも 下から染まる ピンク色 | 矢澤 正二 |
| 3) 見ていると眠くなるよな課題かな | 池田 隆 |
| 4) 目をこすりついに来たかと 白内障 | 矢澤 正二 |
| 5) 山姥 は野に降り里の花となる | 平尾 富男 |
| 6) 春満ちて 山の神 さん化粧どき | 新田 由紀子 |

寸評：

- 1) 霞んだ春山の色調を**女神のひと刷毛**とした表現が利いている。
- 2) トリスおじさんが一杯飲むと下から酔いがあがってくる。**下から染まる**が上手い。
- 3) 全体に霞みがかった画面にパンチがないのでどうしても眠くなる。正直な感想だ。
- 4) ピントが合わないので自分の眼が悪くなったのかと心配が先に来る。
- 5) 春の女神ではなく**山姥**ときた。年齢相応の発想力といえれば聞こえは良いが。
- 6) 外出の機会が増え、**奥方**も化粧に気を付けるようになるというお話。

春とか花とか写真をみればわかるような言葉を使用しないのがフォト句のコツです。